



働きながら資格を取りたい

趣味を楽しむ時間が欲しい

応援します!



仕事と子育てを両立したい

特集

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

市では、ワーク・ライフ・バランス（以下WLB）の推進に取り組む企業を応援するため、平成29年度から2つの助成制度を実施しています。

制度が多くの企業に活用され、WLBが推進されることを目指し、実際に制度を利用した企業のインタビューなどを紹介します。

問合せ 市民参加・住宅施策課（内線3644）



WLBって？

働く人が育児や介護、趣味、休養といった仕事以外の生活と仕事との調和をとり、その両方を充実させる生き方のことです。年齢や子どもの有無など、置かれた状況に応じた働き方・生き方ができると、多様な人材が働くことができるようになります。

市は、WLBの推進に取り組む企業を支援することで、全ての働く人が仕事と生活の調和を実現できる社会を目指します。

ワーク・ライフ・バランス推進事業助成金

WLBの取り組みを実施する中小企業などの事業主に、費用の一部を助成します。

助成金額 対象経費の2分の1（上限額10万円）

対象事業

- 従業員のWLBに関する意識調査
- WLBに関する従業員向けの研修
- WLBの推進に係る就業規則の見直し など

男性育児休業取得助成金

中小企業などに勤務する男性が育児休業（以下育休）を取得した場合、事業主に助成金を交付します。

助成金額 30万円

交付要件

3歳未満の子を育てるために、10日以上育休を取得し、職場に復帰後1カ月以上勤務する男性を雇用している など

* 提出書類や申込方法など詳しくは、市ホームページ「市役所ご案内→男女共同参画」をご覧ください。

育児取得に向けて

妊娠中の妻の辛そうな様子を見て、出産後も積極的に妻を支えたいと思っていたところ、会社の後押しもあり、育児を取得しました。子どもが生後5カ月の頃から約1カ月間、育児に専念しました。

育児を取るための準備として仕事の面では、作業の能率を上げ、一人で抱えていた仕事を他の人に分担することで対応しました。

これまで30年間同じ仕事をしてきた中で、1カ月間休むことへの不安はもちろんありました。しかし、育児を取得して数日後には、子どものことで頭がいっぱい。育児を取得しなければ分らなかった感覚かもしれません。

育児は家族みんなのための休暇

育児は子どもだけでなく、妻のための休暇でもあると考え、全体的なフォローを意識しました。完璧ではなかったかもしれませんが、日々子どもと関わることで、一通りのことはできるようにになりました。妻に「居てもらえるだけで助かる」と言われ精神的な支えにもなれたかなと思います。子どもの具合が悪くなった時

積極的に子育てができた

育児
取得者



札幌リージェントゴルフ倶楽部
支配人
堀内慎二さん

など、急な出来事にも夫婦で一緒に対応できたことも良かったです。

子どもの成長を実感できた

子どもの成長は目まぐるしく、日々の変化を身近で見られることは貴重なことだと実感しました。育児を取得していなければ、見られなかった変化もあったのかもしれない。他の男性にも実感してほしいです。

▼ハーフバースデーのお祝い



社内ですべて男性が育児を取得

社員規定の見直しを行った時に、育児も含め特別休暇についての見直しを行いました。しかし、特別休暇の取得率は低く、どうすれば多くの社員に取得してもらえるか、解決策を見いだせずにいました。

昨年の秋、市の男性育児休業取得助成金を知りました。堀内さんの家庭に子どもが産まれ、何か手助けをしたいと思っていたところだったので、育児の取得を勧めるきっかけになりました。

特に最近では、育児を積極的に取るよう社員に伝えていきます。管理職の堀内さんが育児を取ったことで、男女問わず、若い社員でも休暇を取りやすいと思ってもらえたら良いと思います。休暇を有意義に使い、それを活力にして職場に復帰してくれると嬉しいです。

時代に合わせて会社も変化を

バブル世代やゆとり世代などの〇〇世代といった言葉に表れているように、時代によって生き方や働き方には変化が生じます。

事業主としてそういった変化に戸惑うこともありましたが、しかし、時

事業主

社員のWLBのために



札幌リージェントゴルフ倶楽部
総支配人
早田顕輔さん

代の変化を正しく理解し、それに合った形で会社も変わっていくことが必要だと思っています。

特別なことはしていませんが、朝礼や会議、社員への声掛けを通して、社内ですべて男性が育児を取ったことで、意識しています。

WLBの実現に向けて

男性が育児を取ったことで、社員にとって働きやすい環境とはどのようなものか、改めて考えることができました。

WLBの実現に向けて、一歩前進したように感じます。しかし、育児を取ることだけがWLBに直結するわけではありません。これからも歩みを止めず、社員のために会社ができることを考えていきたいです。